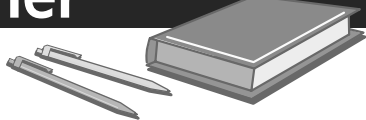


Book Review Corner



「地球の歩き方」編集室 編

『ヨーロッパ鉄道の旅』

(ダイヤモンド・ビッグ社)

海外に旅する前に図書館でガイドブックをチェックするのはもう当たり前のことですが、今回は旅の上級者の方必読の一冊をご紹介します。

本書は『地球の歩き方』の「鉄道の旅」シリーズ版で、鉄道で旅する人のために鉄道の基礎知識やプランニングまでが詳しく書かれています。また、このシリーズにはヨーロッパを総合したものだけでなく、各国別に書かれたものが揃っており、内容も充実しています。

あなたも今年は、本書を片手に鉄道の旅に挑戦してみたいいかがですか。 290.9-Chik-1 (N.K.)

ヘルマン・ヘッセ 著、V. ミヒェルス 編、
岡田朝雄 訳

『ヘッセの読書術』

(草思社)

ドイツの小説家・詩人として有名なヘルマン・ヘッセは、きわめて熱心な、そしてすぐれた読書家でもありました。

本書は世界各国の文学を数万冊も読破した彼の、読書に対する思いをつづった1冊です。また「世界文学文庫」と題して、ヘッセが推奨する世界文学についての読書案内が紹介されています。その数、内容ともに文学を愛した彼ならではの充実したものとなっています。この本が皆さんにとって、古典文学の世界に足を踏み入れるきっかけとなれば幸いです。

019-Hes (H.T.)



加瀬俊一 著

『あの時「昭和」が変わった：101歳、最後の証言』

(光文社)

著者は1925年に外務省に入省。大臣秘書官、英帝国課長、北米課長、情報部部長(局長)、初代国連大使、初代ユーゴ大使、外務省顧問、首相特使等を歴任。1945年9月2日、情報局部長として、重光外相に同行してアメリカ戦艦『ミズーリ』号の艦上での「降伏文書調印式」に出席。本書では戦前、戦後の日本外交の最前線での活躍を、時代の検証者という立場から正確に再現しています。

「外交感覚のないものは、亡びる」とは外交官、政治家であった吉田茂元首相の戒め。外国語、外国文化と日本文化に造詣深い著者の教養が外交の基盤であると痛感させられる書物です。ちなみに、著者は本学教授でもありました。

319.1-Kas (S.O)

ノーム・チヨムスキー 著、寺島隆吉 訳 『チヨムスキー21世紀の帝国アメリカを語る ：イラク戦争とアメリカの目指す世界新秩序』

(明石書店)

チヨムスキーは、著名な言語学者であるとともに、反戦争の立場をとり、自国アメリカの政策に対して批判的な立場をとる社会評論家でもあります。この本は2002年3月から2003年12月までに行われた彼のインタビュー、講演、論文の中からイラク戦争に関するものを選んで時系列に並べたものです。

政府による戦争の正当化、それを信じる国民。それは戦時中の日本でも起こった過去の話ではありません。世界のリーダーとなったアメリカが何を行い、何を行おうとしているかを知ることのできる一冊です。

319.530273-Cho (R.M.)